WASEDA BUSINESS SCHOOL
早稲田大学ビジネススクール

ガバナンス・アップグレード講座

**コーポレートガバナンス・コードの適用開始以降、社外取締役は増加したものの未だ日本のガバナンス改革は表層的で、マネジメントサイドの利益相反行為に対する監視が不十分であるという指摘が相次いでいます。
早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センターは、こうした状況に鑑みて、日本企業の取締役会がアドバイザリーモデルを卒業してモニタリングモデルに移行するプロセスを後押しするプログラムを開講します。**

［集中講義］ 2027年
3月11木12金13土

対象	上場企業の 社外取締役・取締役会議長 および取締役会事務局担当者
コマ数	各日3コマ（計9コマ） ①9:00-11:30 ②12:30-15:00 ③15:15-17:45
受講料	60万円（税込） ※交通費別　※宿泊は含みません
会場	早稲田大学早稲田キャンパス 26号館7階講義室（対面）
定員	20名程度

目的

本プログラムは、コーポレートガバナンス・コードが上場企業に求める体制実現に必要な知識とスキルを一気通貫で育むことを目的としています。法的知識から、実例に基づく取締役の役割までを網羅し、理論と実務の双方から、ガバナンス強化の実践力を体系的に養うことを目指します。

3日間の集中講義

DAY 1 会社法を知る

取締役会の歴史、社外取締役誕生の経緯および関連法規、善管注意義務といった、ガバナンス強化に不可欠な法的知識を、グローバルな視点から体系的に学びます。

DAY 2 執行部隊のモニタリング

利益相反の観点から、ステークホルダー保護のための不正抑止策、指名・報酬における社外取締役の役割、買収提案時に取締役が果たすべき役割などを学びます。

DAY 3 経営戦略のモニタリング

利益相反の観点から、経営戦略に対する取締役会の関与のあり方について、不振事業・現行主力事業・未来の主力事業の3パターンを軸に解説します。

早稲田大学の強み

理論と実務を兼ね備えた一流の講師陣

様々な企業で社外取締役を歴任してきたコーディネーターと、商学・法学の分野で企業ガバナンスや会社法を専門に教育研究を行っている現役の講師陣が担当します。実例から得られた知見と学術的な深い洞察を組み合わせ、受講者に多角的なインサイトを提供します。

理論と実践を融合させる独自の学習メソッド

「ケース講義・ディスカッション・グループワーク」を効果的に組み合わせ、単なる知識の習得に留まらず、実践的な学びを通じて、即戦力となる経営能力を養います。

日本トップレベルのMBA教育と研修実績

国内トップレベルを誇る早稲田大学MBA（早稲田大学ビジネススクール）教育と密接に連携しています。数多くの企業幹部を対象としたオープン募集型プログラムや、各企業に最適化したオーダーメイド型研修を手掛けてきた育成実績があります。

講師陣



プログラムコーディネーター
三品 和広
早稲田大学
ビジネス・ファイナンス研究センター　研究院教授



中村 信男
早稲田大学
商学部
教授



黒木 彰子
帝京大学
経済学部
教授

本プログラムに関するお問合せ先
早稲田大学ビジネス・ファイナンス研究センター　エグゼクティブ研修事務局
運営受託：（株）早稲田大学アカデミックソリューション　TEL：03-3208-7866（代表）
E-mail ：exe-edu@w-as.jp　HP：https://www.waseda.jp/fcom/wbf/education/executive